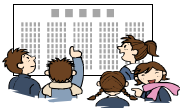


# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## それぞれの卒業



### 「合格しました！」その1

・「高校に合格しました！」と、昨年度から関わっている生徒の保護者からうれしい知らせをもらった。定期的に医療とも連携していた生徒で、漢字をなかなか覚えられない、曖昧な指示理解が難しい、整理整頓や友達との関わりが苦手等の特性がある。心理検査の結果は、遅れのない数値であるが、発達のアンバランスがあるため、学習・生活面で困り感が大きかった。

⇒中学校では、個別の指導計画を作成し、得意な「話すこと」を生かしながら、苦手さにもアプローチをした。しかし、本人が一番変わったのは、夢中になっているスポーツを「高校でやってみたい！」という明確な目標がもてたことである。人に言われたことは長続きしないが、自分で選んだことは努力ができるし、頑張りも利く。好きなスポーツができるいくつかの高校見学もして、最終的に自分で決めた。

⇒引継ぎ資料の一つとして、中学校と保護者が一緒に「個別の（教育）支援計画」を作成した。入学後、必要に応じて高等学校特別支援隊や特別支援学校のセンター的機能等の活用も記載している。

充実した高校生活を送れるように、必要に応じてこれからも私たちが地域のネットワークをフルに活用して支えていくことを約束する。

### 「合格しました！」その2

・「志望校に合格しました！」という吉報を、昨年度から相談を受けている生徒の保護者から電話で聞いた。進学は普通高校か実業高校かで悩んでいたが、最終的には本人の力が発揮できる普通高校を選んだ。生徒は不安な気持ちが強く、些細なことでもマイナスに考えてしまう、こだわりや感覚過敏の特性があった。やや運動面が苦手な体使いにぎこちなさもあった。

⇒今でも印象に残っている授業がある。男子生徒がチームに分かれてソフトボールをしていた。その生徒が打席に入ると、ピッチャーが少しだけホームベースに近い位置でボールを投げていた。みんなで考えた「特別ルール」である。それが「当たり前ルール」になっていた。周囲の友達の理解が、その生徒を支えていた。最後の学級の時間に「今年のクラスは今までで最高だった！」と話したという。

⇒中学校では、何度も面接練習を行い、自信をもたせた。「個別の（教育）支援計画」を作成し、保護者が署名捺印後に引き継ぐ。これから地域ごとに中学校と高校の生徒指導担当者による連絡会が開催される。スムーズな移行につながるような情報交換をしてほしい。

支援していく人は変わるので、同じ質を保っていくためには、連携して次の人に確実に伝えていくことが大切である。

### 「就職が決まりました！」

・「お陰様でわが子の就職が決まりました。卒業を控えた今、自動車学校に通いながら 残りの学校生活を元気に過ごしてしております。あの時の先生の一つ一つの教えが・・・(略)」という手紙をもらった。3年半前、保護者と生徒が教育相談に訪れた。これまで周囲から理解してもらえず、別室登校していることを語るうちに、親子で涙する姿を今でも忘れられない。「希望を与えたい」という強い思いで、中学校に生徒の特性を伝えたり、関係機関と連絡を取り合ったりした。

生活する上で、本人の困り感が大きい場合、それを乗り越えるためには3つの要素がある。一つめは本人の強さや自信、2つめは苦手さをカバーできるもの(付箋・パソコン・車いす等)、3つめは周囲の人の理解である。困り感の大きい人を受け入れ、認めてくれる周囲の人の理解が、本人に強さと自信をもたらす。最後に「社会に貢献することを恩返しと思い、真摯に仕事に励みながら日々精進してまいりたいと思います。」と綴られていた。社会で必要とされる存在となるように、自分の役割を果たしながら、「なりたい自分」にチャレンジしていくことを期待している。〇〇さんなら大丈夫！